



芝山小だより



9月号
清瀬市立芝山小学校

校長 榎並 みな子

命の週間

校長 榎並 みな子

あるテレビ番組を見ていた時のことです。出演者の一人が「へその緒、どうしてますか。」というお題を投げかけ、他の出演者が自身のことを話していました。印象に残ったのは、「へその緒が保管されていた桐箱は、開けてはいけないもののように感じていた。こっそり見て、これを大事にしているのか、と思っていた。」という話です。へその緒は、赤ちゃんがお腹の中にいた時に、お母さんにつながっていた1本の命綱です。だから、この話は、実はとても深い話のように感じました。私は、実際にへその緒を大事に保管しています。そのへその緒は、長女を出産する前に母から受け取ったもので、命のつながりと考えています。

さて、赤ちゃんがお母さんのお腹の中で過ごすのは、約10か月。その間、赤ちゃんに栄養を送ってくれていたのは、お母さんにつながっているへその緒です。だから、無事に生まれてくれることをひたすら願いながら、食事などの生活の仕方に気を付けて過ごします。そして、赤ちゃんが少しずつ成長していることを表すように、お腹が少しずつ大きくなっていきます。家族は、お腹をさすりながら、「大きくなってね。」「元気に育ってね。」などと声をかけ、大事に、大事にしながら、誕生を心待ちにしていたことでしょう。

「大切な命」。子供たちは、この世に出てくる前から大切な存在です。9月初めの1週間は、「命の週間」です。自分も他の人も大切にできる力を付けていくことができるよう、2学期も教職員が一丸となって指導してまいります。

夏休みの図書館開放の際に読んだ絵本の抜粋です。

あなたは あなた

あかちゃんだった あなたは
からだを ころを ふくらませ
ちいさな いちにんまえに なりました

そして さらに
あらゆることを あじわって
おおきな おとこのひとや おんなのひとに
なるでしょう

でも あなたにとって
たいせつなのは
あなたが あなたで あること

引用文献：「たいせつなこと」
マーガレット・ワイズ・ブラウン さく
うちだややく やく

あるテレビ番組の話には、続きがあります。

日本でへその緒が保管されるようになったのは、江戸時代中期と言われ、それまでは、そのような習慣はなかったようです。また、最後には「お母さんが死んだときに棺桶と一緒に入れて、娘や息子とお母さんが天国でつながれる。」と言われることもあるそうですが、「お墓に埋葬する」「大黒柱に埋める」など、地域によって違う最後を迎えるようです。（へその緒を保管するかどうかは、自由です。また、外国では、へその緒を保管するという習慣はないようです。）

